

Young Official Camp 2016 参加報告書

報告者 北野 真美子

- 期間 平成 28 年 8 月 12 日(金)～8 月 14 日(日)
- 会場 埼玉県立上尾運動公園体育館/上尾スポーツ総合センター
- 講師 阿部 哲也、吉田 正治、関口 知之、平 育雄、安西 郷史、小澤 勤、片寄 達、
宇田川 貴生、北島 寛臣、山崎 人志、前田 喜庸、須黒 祥子、平原 勇次、
加藤 誉樹、大野 健男
埼玉県協会：竹澤 友美、九里 亜紀、小柳 幸子
JBA：上田 篤拓、高森 英樹、岩田 千奈美
- 参加者 30名(男性 20名、女性 10名)
- 日程

8月12日(金)	行程	講師	場所
12:30	集合		スポーツ研修センター講堂
13:00～13:20	開講式		
13:20～16:50	講義Ⅰ「判定について」	平 育雄 氏	スポーツ研修センター講堂
	(更衣)		
	実技Ⅰ「基本の動きとレポートについて」	平 育雄 氏	スポーツ研修センター体育館
17:00	入室、入浴		
18:00	夕食		
19:00～20:50	講義Ⅱ「人に対する印象と正しい判定のために」	平 育雄 氏	スポーツ研修センター講堂
		須黒 祥子 氏	
21:00	自由時間		スポーツ研修センター各部屋
23:00	消灯		

8月13日(土)	行程	講師	場所
7:00	朝食		
9:00～17:00	実技Ⅱ「高校生男女のモデルゲームを使い実技講習」	講師全員	上尾運動公園体育館
17:00	入浴		
18:00	夕食		
18:50～20:35	講義Ⅲ「YOCから世界へ」	加藤 誉樹 氏	スポーツ研修センター講義室
		平原 勇次 氏	
		外部講師	
20:40	閉講式		スポーツ研修センター講義室
21:00	自由時間		スポーツ研修センター各部屋

23:00	消灯		
-------	----	--	--

8月14日(日)	行程	講師	場所
7:00	朝食		
8:00	部屋点検		
9:30~14:00	実技Ⅲ「高校生男女のモデルゲームを使い実技講習」	講師全員	上尾運動公園体育館
	※各自帰りの交通機関にあわせて随時解散		

○講義実技内容

<講義 I >

「判定について」 講師：平 育雄 氏 [スポーツ研修センター講堂]

YOC 参加に当たって下記の 3 点を心得ること。

- ①□ 志は何か？を考え直す
- ②□ どれだけの人の協力で参加できているかを感じる
- ③□ 経験を報告する

その他、年齢や社会人か学生か等に関わらず多くの人と交わること、恐れずに発言し、失敗し、みんなに笑ってもらうこと、今回の日程のみで解決することばかりではないので県に帰ってからの取り組みが大切であり、今の自分にとって早いと感じたものに関しては 2、3 年後まで置いておくこと等の諸注意あり。

■判定

「トラヴェリング」をイメージしてみる

講師よりイメージで自分はリードであったか、トレールであったか、シーンはミートの部分だったか、ドライブの部分だったか、ドライブは右だったか左だったかとの問いかけ

プレイの始まり	…	途中	…	終わり
判定準備	…	判定のイメージ	…	ファウルかどうか
頭の中の言葉	…	判定の根拠のイメージ	…	判定

・頭の中の言葉

「今は右足がピボットフットか」「オフENSEから寄っていった」等

・判定の根拠

ルールに基づいて「右足が浮いてから判定しよう」「ディフェンスがポジションを正統に占めている」等

・判定 迷わない、ふれ合いに左右されない

「明らかな判定ミスをしていない」を守りましょう

明らかなファール、明らかな正統の誤審は関係者全員へストレスを与え、審判は大きなストレスを抱えることになる。

→そのために…

①判断できるプレーに対してのみ判定する習慣をつけることが大切。

A さん：判断できるプレーのみを判定する

B さん：判断できないプレーを判定する

どちらになりたいかは信念

A さんは1年2年5年と経験を積むにつれて判断できるプレーが増えていくが、きっとBさんはセンスがあったとしても割り当てが減っていくだろう。

②自分のエリアに責任を持って判断をする

☆Primary Coverage(P.C、プライマリー)…

自分第一のプレー、ここでのミスをなくしましょうというエリア

そのためにトレール、リードのそれぞれが判断できるプレーは何なのかを把握する

■判定の基準

ゲームに基準は1つしかない、1つであることが大事（相手が吹いたものを覚えておく）

(1)早い段階で基準を示す

(2)その基準で判定し続けるメンタリティー

(3)明らかな現象は必ず判定する

(4)厳しさを伴った公平性を持つ

(5)自分自身の判定に妥協しない

(6)些細な現象に囚われて大きな現象を見逃すことのない様にする

グレーな判定をした後に
次の明らかな判定を逃さない

・片方に不当な権利を与えると、もう一方の権利も認めなくてはならなくなる

→ラフなプレーを審判が誘発している

Ex：センターのポジション争い

・逆に片方のみ認めればフラストレーションを溜めてリアクションの判定に繋がる

それぞれのプライマリーを大切に、判断できる位置(プレーとの距離とアングル)に対し
試行錯誤を繰り返す。

■ハンド - チェッキング

(1)OF・DFにも同じ権利がある

(2)コート上のプレイヤーは任意の位置を占めることができる ※

※OFとDFは互いに次のスポットに行く争いをしているため、動きを妨げるのみでなく動きに影響を与

えるものは瞬間的なものであっても許さない
☆RSVQ(リズム/スピード/バランス/クイックネス)の考え方をしっかりと持つ

■ポストプレイ

- (1)真上の空間の権利の考え方を適用する
- (2)タフなプレーとラフなプレーを間違えない

- ・特に伸びきった手や両手でのディフェンスはオートマチックに取り上げる
- ・声を有効に使う

適切なタイミングと短い言葉をポイントに笛を加えたままで

Ex:「まっすぐ」「手離す」

■アンスポーツマンライクファウル

- (1)ボールに対するプレイではなく且つ正統なバスケットとは認められないと審判が判断したもの
- (2)過度な接触と審判が判断したもの
- (3)ラスト1プレーで後ろもしくは横から起こったもの
- (4)4ピラスト2分のスローイン時に適用されるもの

- ・どの項目で取り上げたのかまで相手審判と確認をする
- ・まず吹く(パーソナルファウルのシグナル)→状況を確認し→必要ならUのシグナル
→より冷静な判定だと周囲に印象づけるため

<実技 I >

「基本の動きとレポートについて」 講師：平 育雄 氏 [スポーツ研修センター講堂]

- ・ニューリードに入り、一度止まって、判定の上レポートに行くという一連の動作の確認とレポートの仕方に対するアドバイス
- ・講師3名の動きに対してトレールポジションの確認
- ・ニューリードに入る際にトレールのプライマリーをフォローする動き
- ・講習生3名1組でオフENSE・ディフェンス・審判の役割に別れ判定基準と選手真理(何をされたら嫌なのか、リアクションの心理)の確認

<講義 II >

「オリンピックの経験について」 講師：須黒 祥子 氏[スポーツ研修センター講堂]

「人に対する印象と正しい判定のために」 講師：平 育雄 氏 [スポーツ研修センター講堂]

■オリンピックの経験について

須黒氏のオリンピック経験に関する話を聞かせていただきました。

楽しい等の華やかな世間のイメージとは裏腹にあった最終日に近づくにつれての気持ちの変化を聞き、審判の担う役割の責任の重さを感じました。しかし、「判定したらゲームクロックを確認するなど自分の行うべきことをいつも通りにやろう」という心持ちで臨んだため緊張はあまりしなかったとの話もありました。須黒氏の仰った通り「選ぶのは他人なのでチャンスが来た時にどんなパフォーマンスができるか」の一言に尽きると思うので、大事な場面での自信を裏付けるためにも日ごろの努力を積み重ねようと思いました。

■人に対する印象と正しい判定のために

人に対する印象=見た目と声が 93%

審判において必要な印象

- ① □ 決断力 … ルール・バスケットボールの理解、審判の理解
- ② 信頼感 … 服装・髪型・挨拶

③ コミュニケーション

A: 自分からのコミュニケーション

B: 他者からのコミュニケーション (近づきやすい雰囲気)

→そのためには…

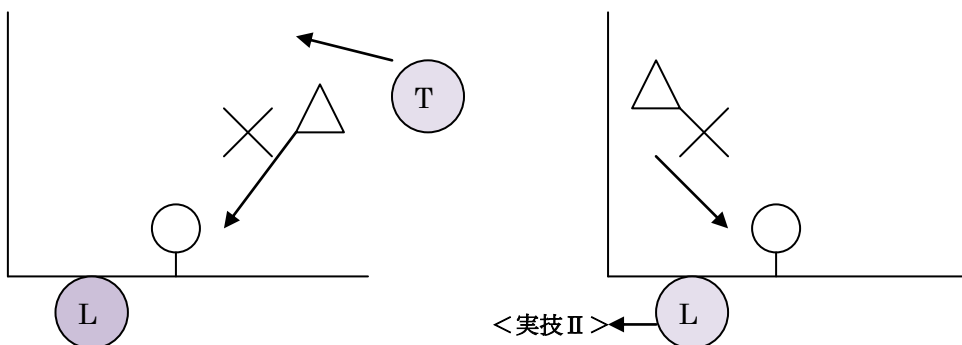
- ・ 声(言葉)の選び方、使い方
- ・ 「丁寧さ」「優しさ」「力強さ」「声の高低」「会話のスピード」

☆力強さだけが全てではない (人間性)

正しい判定のために

- ① ブラインドからの判定をしない
- ② 動きながらの判定をしない (その前に動いておくこと)

☆Cross step … よい角度で見るためにボールとは反対に動くペネトレイト



「高校生男女のゲームを使い実技講習」[スポーツ研修センター講堂]

【3班】講師：平 育雄 氏、須黒 祥子 氏、片寄 達 氏、北島 寛臣 氏

■越谷西一都立駒場（男子）担当講師：須黒 祥子 氏 R：松仲 文弥(石川県) U：北野 真美子

【頂いた反省】

・リード

まず定位置まで戻って一度止まってからプレーを見始める。

いつでも右サイドへ移動できる様にプレーが右半分で行われている際は少し右へ寄っておく。

ポジションが下がりすぎ、広がりすぎとの指摘があった。シャドウで付いていただき、どのプレイヤーが次に何をしようのかを考える癖付けや動くタイミングなど常に声をかけていただいた。

ディフェンスが守りきりそうな時は開いてトラヴェリングを良い位置で見える動き、抜かれそうな時は新たなアングルとヘルプディフェンスも視野に入るポジションへの移動ができていない。ヘルプディフェンスに関しては大きな接触があり明らかな判定が必要なシーンだったがコールできないという反省が残った。

6番に向かってくるルーズボールに対しては先に動いておいてスペースを捉え、迎える形でファールやアウトオブバウンズの判定をする。

・トレール

動きすぎとの指摘がありシャドウで付いていただいた。特に3番にボールがある時に1番から目が切れる角度でボールへ向かっているため両方が見える位置・角度でポジションを取る必要がある。視野が狭い。

・現状体力には問題ないが、5年後・10年後と活動を続けるためには予測が必要

■ふじみ野一都立駒場（女子）担当講師：平 育雄 氏 R：北野 真美子 U：江藤 慶太(京都府)

【反省】

序盤から当たりの激しい状態が続いていたが、影響を考えた判定をし、開始3分程で吹いたファールの数は4～5本程度だった。その結果ボディチェックからリバウンド争いへと発展したやり取りから選手の怪我に繋がってしまい、試合は中断となった。ふれ合いの程度の大小や試合の流れに対する影響のみしか考えないのではなくプレイヤー心理を感じて悪質だと感じたものは徹底的に吹き続けるべきだった。また、やはり3番にボールがある際に1番に目が当たっていない位置取りとなっており死角で接触が起こっている。

【頂いた反省】

・最終的に怪我に繋がったプレーはファールのコールはしていたものの、パーソナルファールだった。オフenseがひじを振りまわす行為だったため、UかTかもしくはDで迷うべきだった。

・ボディチェックは向かってくるプレイヤーを受けているだけか、そうではないかを基準とする。

・序盤から接触が激しかったので声を使うべきだった。

・プレゲームカンファレンスの時点でボディチェックの話が上がっていたにも関わらず吹けないものが

あったのは「吹こう」と「絶対に見逃さない」という信念の違いではないかとの指摘をいただいた。

<講義Ⅲ>

「YOCから世界へ」 講師：加藤 誉樹 氏[スポーツ研修センター講堂]

本人の努力×周囲の理解・協力＝目標達成
なりたい自分－客観的な今の自分＝取り組む課題

質問1：どんな自分になりたいですか？

初対面であっても試合終了後にはベンチや観客から信頼される審判員

質問2：そのために足りない部分は？

正しい判定のためのバスケットボールの理解、人間性

・ A(あたり前のことを) B(バカにせず) C(ちゃんとやる)ことが大事

<実技Ⅲ>

「高校生男女のゲームを使い実技講習」[スポーツ研修センター講堂]

【3班】講師：平 育雄 氏、須黒 祥子 氏、片寄 達 氏、北島 寛臣 氏

■ふじみ野一都立駒場（女子）担当講師：平 育雄 氏 R：佐藤 香純 U：北野 真美子

【頂いた反省】

・トラヴェリングの判定

軸足を確認する癖がついておらず、ボールをもらった足の後に2歩ステップを踏むというミートの判定ができなかった。コートサイドで実際にトラヴェリングを数パターンほど実演していただき笛を鳴らす練習をした。

→ディフェンスの権利を守るためにもトラヴェリングの判定は厳しく行うべき。国際試合と比べて国内のゲームでは判定が甘いので、日ごろ目にしているものではなく感覚を改める必要がある。

・トレールの角度

昨日の反省と同じシチュエーションでトラヴェリングという課題と、3番ポジションでのアウトサイドスクリーンの判定が加わり、1番ポジションに全く目が当たっていなかった。

→その場合はファールかトラヴェリングかまずどちらかを片付ける。

《全体を通して》

今回 YOC に参加させていただき強く感じたことは自分の気持ちの弱さです。

2 日目の夜に加藤氏の講義をきっかけに「今の自分に客観的に足りないもの」を考えようと思い 3 日目はとにかく目に入る人と自分との比較を繰り返しました。判定の内容やコートでの所作はもちろんのこと、きびきびとした行動や話し方、講習生や講師の方と積極的にコミュニケーションを取りに行く姿勢、話しかけやすい雰囲気、知性、容姿、礼儀、メリハリ、表情など、多くの人の様々な部分に目を当て、自分のこれまでを振り返ってみると、中途半端な姿勢や取り組みがコートでの自信の薄さや判定の徹底具合、コート外での遠慮に繋がっているのではないかと感じました。上級審判を目指すに当たり技術の向上と人間性の向上とは両輪であるべきだと学び、また人間性が優れることで周りの方に指導をしていただけるチャンスをより多く掴むことができたり、その結果を深く吸収して前進することができるのではないかと思います。帰路に着く頃には目標が明確になった分、たくさんの課題に対する焦りと行き場のない悔しさでいっぱいになりましたが、ここからの取り組み次第だと信じ、またひとつひとつ改善していきたいと決意を新たにしております。

最後になりましたが、この度は YOC 参加という貴重な機会をいただきましてありがとうございました。事前の準備や当日も細部まで気を遣ってくださった講師の方々、埼玉県協会の方々、JBA のの方々、そしてチャンスを与えてくださった大谷中国ブロック長、有澤山口県審判長、県内の仲間に心から感謝をし、成長を持ってこれから恩返しをしていける様益々活動に励みます。

以上を持って参加報告とさせていただきます。ありがとうございました。